

拠点形成研究交流報告：ワーゲニンゲン大学・Prof. Geert Wiegertjes 研究室での共同研究打合せ

平成30年8月末から9月にかけて、高橋大輔（分子生物学分野、博士課程DC1）と共にオランダ・ワーゲニンゲンに4日間滞在し、ワーゲニンゲン大学の Prof. Geert Wiegertjes と共同研究の実施と成果報告についての打合せを行いました。



Prof. Wiegertjes の研究室には、原田研究室の学生の横山吟司君が本年の8月初めまで、およそ10ヶ月滞在して、魚類の innate immunity におけるエピジェネティック制御に関する共同研究を実施し、興味深い結果を得ています。帰国後も横山君は、これらの共同研究のいくつかを原田研究室で引き続き実施することにしています。また、その他の共同研究についても、Prof. Wiegertjes の研究室のメンバーが引き継ぐことを予定しています。そこで今回の滞在では、どのように共同研究の実験を分担するか、どのような実験技術と実験材料を用いるのか、これらの技術と材料のやりとりをどのように行うのか、研究対象についてどこまで明らかにすることを目指すのか、またどのように研究成果を論文として発表するのか、などについて、一つずつ時間をかけて打合せを行いました。さらに、Prof. Wiegertjes の研究室で実施する共同研究については、実際に使用する装置を使用したパイロット実験を実施し、その有用性や展開可能性について論議しました。その結果、共同研究の実施についての分担や共同体制が整理され、今後の共同研究をさらに大きく進展することができることを、双方において確認することができました。さらに討論のなかで、魚類のゲノム・遺伝子の機能におけるエピジェネティック研究のポテンシャルが再認識でき、ヨーロッパでの魚類研究プロジェクトに共同で応募する可能性を検討することになりました。このような充実した滞在をサポートいただいた JSPS 研究拠点形成事業に感謝いたします。

原田昌彦（食と農免疫国際教育研究センター・副センター長）

